



鹿児島県議会議員 秋丸 健一郎

# 秋丸だより

Vol.11  
2025年12月  
議会報告号  
(2026年2月発行)

## 言志

秋丸 健一郎

現在、鹿児島県議会では来年度の県議会議員選挙を見据え、10人で構成する「議員定数等検討委員会」を設置し、議員定数や選挙区の見直し、定数配分について協議を進めています。私も委員として議論に参加しています。

1月末までに14回の会議を重ね、まず議員の総定数が議題となりました。私は、平成23年の前回見直し以降、県人口が約20万人減少していることを踏まえ、議会自らが身を切る姿勢を示すべきだと定数削減を主張しましたが、12月の委員会では現行51人維持が多数決で確認されました。

現在は選挙区の区割りや議席配分の協議に移り、一票の格差と一人区の内割り、一人区と二人区との区割りが大きな論点となっています。前回選挙では、西之表市・熊毛郡区と志布志市・曾於郡区は有権者数がほぼ同規模にもかかわらず、定数はそれぞれ2と1で、一票の重みに大きな差が生じています。

また21選挙区のうち11区が一人区で、そのうち4区は無投票区となり、また一人区すべてで自民党公認候補が当選している状況は課題であるとの声もあります。一方で、離島や中山間地域では、地域の声が議会から届きにくくなるのではないかと不安の声もあります。

## 「自分たちのことを決めることの難しさ」

私は、単なる数合わせや削減ありきの見直しではなく、地域代表性を守りつつも、格差が著しい選挙区は見直すべきだと提案しています。しかし「自分たちのことを自分たちで決める」難しさも痛感しています。第三者委員会の設置も提案しましたが実現しませんでした。年度内に一定の結論が示される見通しであり、今後の議論に注目していただきたいと思っています。



画像：2025年12月10日放送「MBCニュースナウ」より

## 霧島市・湧水町 県議会トピック

**予算**  
角之下川に水害対策として  
2,900万円の調査を実施

8月豪雨で流域の浸水被害の大きかった角之下川の治水対策検討のため、昨年12月に約2千9百万円をかけた調査を開始しました。内容は、8月豪雨時の雨量や洪水流量を解析し、角之下川の水を流す力や浸水被害が起こった原因（天降川の逆流や側溝等からあふれた水など）の検証を行った上、河川改修、遊水池を作るなど治水対策の検討や今回のような大雨の時のソフト対策の検討を行います。概ね半年ほどかかる予定です。



**予算**  
令和7年8月豪雨災害の  
義援金について

鹿児島県が募集していた令和7年8月豪雨災害義援金の一次配分が11月12日にあり、集まった5,054万円のうち、3,314万円が霧島市へ配分され、床上浸水した世帯に4万円など被災された方へ渡されました。

この義援金は、被災後の霧島市内の様子から、公的な支援以上に少しでも被災された方

にお金が支給されるようにと、8月12日に担当課に私が依頼し、塩田知事にもお願いして、翌週の19日から募集が始まったものです。

このほかにも市が募集した義援金や県の被災者生活再建支援金、市の見舞金など少しでも被災された方の生活の復旧のための支援が行われました。

秋丸 健一郎  
プロフィール

● 出身 隼人町神宮  
● 学歴 ラ・サール中・高、  
鹿児島大学法文学部法学科卒

● 資格 行政書士  
● 経歴 霧島市役所 在職23年(保健・福祉・税務・農業委員会)  
向花小学校PTA顧問、新町地区自治公民館 顧問・監事

# 一般質問

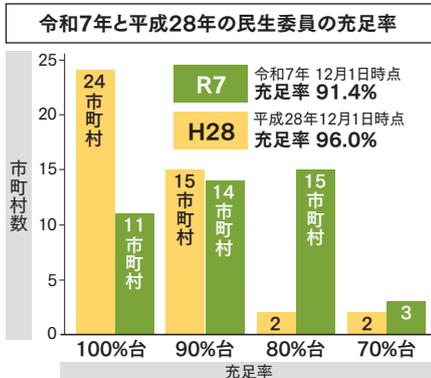
（令和7年12月4日）

## 質問①

### 今のままでは限界です。民生委員

私は霧島市の職員時代、民生委員の担当をしており、平成28年の民生委員の改選に全面的に関わっております。当時においても、成り手不足による欠員が問題となっており、推薦がなかなか上がってこない地区に、お願いに回ったことを覚えています。

#### 今回の民生委員改選の定員充足率について



#### 議場で

民生委員はボランティアという定義を変えて、適切な対価を支給できるようにしなければ、制度の維持は叶わないのではないかと、ずっと感じております。



※記事画像：南日本新聞2025年12月5日

### 県内民生委員充足率91・4%

鹿児島県は4日、12月に改選された民生委員の定員に対する充足率が91・4%

#### 民生委員への対価の提供と負担軽減について

県としては、民生委員の活動支援や負担軽減を図ることは重要だと考えています。県では、民生委員法に基づき、各委員の活動費や地域の民生委員協議会の運営費に交付金を交付しています。また、県民生委員・児童委員協議会の意見等を踏まえ、国に対し「活動等に要する経費の適切な措置」及び「民生委員の役割の明確化と活動範囲の内容・範囲に係るガイドライン等の策定」を要望しているところです。民生委員は、活動の広範化・多様化に伴い、負担は増大してきていると認識しております。今年度に各市町村に対して、民生委員の業務について、調査を実施しています。

#### 議場で

市の職員時代、福祉に長くおり、特に、民生委員や地域包括支援センター、生活支援体制整備に、長く、そして深く関わっております。担当の頃に、民生委員はどの程度の責任を担うのか、という話に私は、困っている人を見つけ、相談を受けるところが本来の役割で、その後の支援は行政に任せてくださいと話していました。が、例えば児童扶養手当の証明書や、生活保護の意見書など、制度的な話や、身寄りのない方の死亡届を出してもらおうとか、入院の保証人になるといような、お願い事もよく聞く話でした。

自主防災組織の話し合いで、「避難時に、自治会に入っていない人への声かけは民生委員で全部やってくれ」という話が出て、ガツクリきたこともありました。民生委員に多くを依存しようとする、依存せざる得ない、制度・地域構造を変えていく必要があると、当時からずっと考えていました。そのためには、これまであまり重要視されていなかった、地域福祉が一番大事です。ここに取り組んでいくので、その地域の未来は大きく変わると思っています。8月に大雨があり、被災された地区で、高齢者から小学生まで、一緒に泥かきを、順番に家の泥をかき出していく姿が見られました。地域コミュニティの原点は防災と福祉です。あらためて地域福祉を推進することが、地域コミュニティの再構築の入り口です。

## 質問②

### 今、補導に取り組むべきか？

県教育委員会は、毎年度150万円を鹿児島県校外生活指導連絡会に「負担金」として支出しています。鹿児島県校外生活指導連絡会は、学校とPTAが連携して、児童・生徒の校外における非行防止や、生活指導を行うために、昭和期に整備された任意団体です。非行率の長期的減少やその形態が時代と共に変化していく中で、同会に対して、「負担金」として支出し続けていることについて疑問があります。

#### 県警察の行う補導情勢について

令和7年に県警察が喫煙・深夜はいかい等で補導した少年は、10月末現在1,064人で、そのうち小学生・中学生・高校生は合わせて591人でした。補導人数は、過去10年間をみると減少傾向にあり、令和6年は、平成27年と比べると約3分の1となっております。

#### 補導活動の必要性について

県教委においては、市町村校外生活指導連絡会が実施する補導活動が、子供の健全育成に資するものと判断し、県校外生活指導連絡会に負担金を支出しています。今後の補導活動の在り方については、補導活動を行う必要があると考えている市町村連絡会がある一方で、補導活動への負担感や補導の実績が減り、その必要性が薄らいだとして、補導活動の見直しを考えている市町村連絡

会があることも承知しています。そのため、県教委においては、今後の補導活動の在り方を検討する必要があると考えており、県連絡会においては、本年度、市町村連絡会に補導活動に関するアンケートを行い、その結果も参考にしながら検討を始めています。

#### 再質問

見直しの検討を始めていたとあったが、これは今後どのような形とスケジュールで進んでいくのか。

県連絡会においても、アンケート調査を実施して、その結果を取りまとめました。そして臨時の会を設けて、そこで議論をしたと聞いております。その議論の中では、両方の意見があったということで、また引き続き検討していくので、まだ具体的なスケジュールは決まっておりません。

#### 議場で

学校も、保護者も余裕がない中で、この郊外生活指導連絡会が旧態依然とした活動を続けているのではないかと、このことを質問しました。PTAのあり方もそうですが、時代にあつた形に変えていかなければ、関わる人がどんどん減っていき、最後には必要な活動もできなくなります。学校の先生方の働き方改革という点でも、必要なところか否か、県教委でしっかり整理に向けて、早急に導いてください。一年一年状況は悪くなっています。

### 質問③ 日本一高い？ 鹿児島のお米

11月18日に公表された令和7年産米の相対取引価格の10月の速報値においては、全銘柄平均が3万7千円台と、過去最高水準を更新したと報じられております。

同速報値によれば、7年産米の全銘柄の年産平均価格は前年比14.9%であり、引き続き、米の取引価格は上昇傾向にあることが伺え、県内相場についても、高値基調が続いているのではないかと考えます。

#### 令和6年産米 相対取引価格・数量

- ① 鹿児島：あきほなみ R6: 32,458円 前年の**215%**
  - ② 鹿児島：ヒノヒカリ R6: 29,421円 前年の**199%**
  - ③ 北海道：ゆめぴりか R6: 28,001円 前年の**170%**
- 新潟：コシヒカリ(魚沼) R6: 25,990円 前年の**125%**



一般的に消費者の感覚からいうと、魚沼のコシヒカリよりあきほなみが高いということで、違和感を感じます。8年に向けて、どのような取り組みということが県の方でできるのか、7年産の本県の主食用米の生産量が、今現在約8万5,000トン見込まれています。需要など踏まえた生産目安の9万トンに達していない状況です。

今後、7年産米が生産の目安に達しない状況や、或いは国が示した令和8年産の需給見通しなどを踏まえ、農業団体等のご意見を伺いながら、令和8年産の生産の目安を設定していく考えです。



6月議会で、令和7年産の主食用米の作付面積が10000ヘクタール増との説明がありました。しかし、米全体の面積は、ほとんど変わりがなく、増える分は加工用米や飼料用米からの転作で、加工用米等の不足が懸念されてきました。やはり、全体の耕作面積を増やす取り組みが必要と感じておりますので、県内の米の需給バランスの均衡に向けて県としての取り組みに期待します。

### 県産あきほなみ全国1位

鹿児島県産のあきほなみ米が、令和6年度の相対取引価格で、全国1位の価格を記録した。これは、前年比215%という驚異的な高値を叩き出した。県産米の品質向上とブランド力強化に貢献している。県民は、県産米の魅力を再認識し、消費を促進する取り組みを進めている。

※記事画像：南日本新聞2025年12月5日

### 質問④ 県民の理解が得られるスタジアムを

先日、「鹿児島サンロイヤルホテル跡地と、県立鴨池庭球場の2箇所が、候補地になりうる」として、県と市が合意したことが報じられました。この1年9ヶ月近くの協議過程や、これまでのスタジアム整備に関する考え方との整合性が、明らかではありません。

#### 候補地となり得る土地の絞り込みに係る考え方について

これまで鹿児島市が説明してきた多機能複合型スタジアムの考え方については、同市からは「基本的な考え方は変わっていないが、候補地の選定を最優先に取り組んでいるところであり、

整備予定地を決めた後に、様々な御意見を伺う中で整理していきたい」と聞いております。



私も一サポーターとしては、専用スタジアムで鹿児島ユナイテッドFCの試合を見たいです。しかし、私は県議会議員でもありません。

仮に与次郎地区で整備とすると、これまで語られてきた、中心市街地との回遊性や経済効果の話は、いったいどうなるのか。そこが、サッカーを見ない人たちにも、スタジアムの必要性を理解してもらおう、大事な視点とと思っています。中心市街地

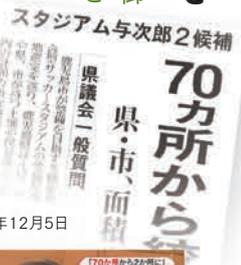
### 質問⑤ 情報公開の意識づけの徹底を

情報公開制度は、県政に対する県民の信頼を確保するうえで不可欠の仕組みです。そして、公文書は原則開示であるというのが、大原則であります。例外的に不開示として取り扱うには具体的な根拠が求められます。

昨年度、県警の不祥事問題が議会で集中的に審議されていた時期に、私は2件の情報公開請求を行い、不開示とされた内容について、審査請求を行いました。

審議の結果、2件とも私の主張が認められ、情報は開示されることとなりました。

しかし、この裁定が下るまでに、一年以上かかりました。結果、議論の時期を逸してしまいました。



※記事画像：南日本新聞2025年12月5日



※画像：2025年12月4日放送「MBCニュースナウ」より

#### 審査会で開示となった件数は

令和6年度に、県情報公開・個人情報保護審査会の答申を経て、実施機関が裁決を行った件数は8件であり、審査請求の受付から裁決までに要した期間の平均は、約11か月でした。

令和6年度の情報公開に係る審査請求4件のうち3件が「全部開示すべき」ということで、当初の判断が変わったということです。



私が議員になって、県職員の方と話をしている時に、「公文書は原則開示ということが、わかっているのだろうか。」と思う場面がしばしばあります。

### 2025.12.4 一般質問 動画視聴

令和7年12月4日に行った秋丸健一郎の一般質問をYouTubeで公開中。



ハイライト  
01 | 県営住宅入居時の  
保証人が不要になりました

12月県議会で、鹿児島県営住宅の入居制度を見直す条例改正が行われました。中でも大きなポイントが、連帯保証人を原則不要としたことです。これまで、高齢者や単身世帯、生活に困窮している方が「保証人が見つからない」という理由で入居できないケースがありました。背景には国の方針転換があります。国土交通省は平成30年に、公営住宅において保証人を必須としない運用へ転換する方向性を示し、令和2年にも再度通知を自治体に示して、柔軟な対応を求めてきました。この動きから、県では、保証人を2人から1人に減らし、また、県と協定を結んだ家賃保証を行う法人が、年1万円程度で保証を行うなどして、入居のハードルを下げてきましたが、私は、保証人制度の見直しを訴えていました。今回の改正では、他にも子育て世帯で入居できる収入の基準が引き上げられるなど、より多くの県民が県営住宅を利用しやすくなります。この制度改正は大きな一歩だと考えています。今後、この取り組みが県内市町村の公営住宅にも広がっていくことを期待しています。

ハイライト  
02 | 八重山風力発電施設の  
建設について

鹿児島市・薩摩川内市にまたがる八重山地区の風力発電計画について、国の環境影響評価の手続きが終了し、事業化に動き出すことになりました。この間、事業者は、県が独自に定める風力発電に関する景観形成ガイドラインの手続きを、県の再三の呼びかけに応じず、進めてきませんでした。県は、38項目の知事意見書を国に提出。その後さらに、事業者と国に対して、知事意見書のうち7項目が改善されていないとして文書を送り、県知事の意見書に添った対応を求めていました。ようやく、9月議会終了直前に、県の手続きの書類が提出されましたが、直後に国の環境影響評価の最終段階の書類を提出。(県は協議書の審査が終わってから出すよう求めていた)結果、国の環境影響評価の確認通知が発出され、その後、県も同ガイドラインに関する適合するとの文書を出しました。この間、地域住民からの賛成の陳情、反対の陳情の両方を県議会及び鹿児島市議会で審議していました。国の確認通知が出た後、鹿児島市議会は賛成陳情を採択、反対陳情を不採択。県議会は、事業化の様子を引き続き見守るべきとして保留(継続審議)となりました。私は今回の産業経済委員会の中で1時間半余り、この件について当局を問いました。私は昨年この話を深く知りましたが、もっと以前から関わっていたら、地域の住民に別な取り組みのアドバイスができたのにと反省しました。

秋丸の発言 12月の産業経済委員会

- 中小企業の価格転嫁の実態把握について
- 奨学金制度について
- 8月の大雨災害に関する緊急災害対策資金の実績は?
- 水産振興計画の見直しについて
- 専門校の就職率について
- 大雨に対する中小企業への支援状況について
- 農林水産物輸出促進ビジョンについて



委員会視察 熊毛地区 種子島-屋久島 2025.11.6-7

産業経済委員会では熊毛地区(種子島・屋久島)を視察しました。初日は種子島で、印象に残ったのは、フラワーアレンジメントで使われるシダの一種であるレザーリーフファンの生産日本一であることと、労働力確保で意見交換した種子島アグリタスのメンバーから聞いた馬毛島

工事が島内生活に与えている影響のこと。二日目の屋久島では、発電施設を見学し、屋久島が電力の99%を水力発電でまかなっている、脱炭素最先端の島であるということを知りました。初めて屋久島に行きましたが、大変興味深い場所でした。



種子島のレザーリーフファンハウス栽培

秋丸健一郎 県政ここだけの話 県政報告会

県政報告と地域の皆様と意見交換を行います。一緒に地域の課題に取り組みましょう。



3月14日 土 14:00~ 溝辺公民館(みそめ館) 第3研修室  
〒899-6404 霧島市溝辺町麓3391(上床公園内)

3月21日 土 10:00~ サン・あもり 会議室  
〒899-5117 霧島市隼人町見次1371

※事前登録など不要です。初めての方もお気軽にお越しください。

県政に対するご意見・ご要望などお気軽にご相談ください。皆様の思いを県政に届け、より良い未来を作ることが県議会議員の役割です。

